

- * ガリラヤのカナ (ガリラヤ湖から西へ20キロほどの所と考えられる) で婚礼があった時の出来事。主イエスが初めての「しるし」(神の子・救い主であることの証明としての奇蹟) を行われた。登場人物ごとに私たちが学ぶべきものを見ていく。
- * イエスの母。ブドウ酒がなくなり、イエスにそのことを告げる。彼ならなんとかしてくれるだろう、と。しかし、イエスの答えは「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」(ヨハネ2 : 4) とそっけない、一見冷たい返事であった。イエスが言われる「私の時」とは、ご自分が神の子であることを公にする時であり、十字架と復活の時である。まだその時ではないので、わたしは今は何もできないという意味であったろう。また、イエスは、母との関係がもうすぐ、救い主と一罪人との関係になることもわかっている。しかし、母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」(2 : 5) 母は聖霊によって身ごもり、生まれて来た子が「いと高き方の子」であるとイエスを信頼しきっていた。結局、イエスは母の思いを聞き入れられる。
- * 「イエスは彼らに言われた。『水がめに水を満たしなさい。』彼らは水がめを縁までいっぱいにした。イエスは彼らに言われた。『さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のところに行って行きなさい。』彼らは持って行った。宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったの、——しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた——」(2 : 8~9) 水がブドウ酒に変わった奇蹟を見たのは、或いは知ったのは「手伝いの人たち」だけであった。彼らは忠実にイエスの言葉に従って、つぶやかずに主に仕えた。その結果、驚くべきイエスのわざと主の栄光にあずかることができた。どんな小さな奉仕でも忠実に行う者には主は恵みを与えられるのである。
- * 宴会の世話役と花婿も大切な婚礼を台無しにすることなく続けることができた。主イエスが臨在される結婚式は祝福に満ちた者になるのである。
- * 「イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。」(2 : 11) 弟子たちもその後イエスの行われた奇蹟を知らされ、それによって、イエスがキリストであることをはっきりと信じることができた。私たちも主の不思議なわざによって主は真の救い主であることを確信するのではないか。信仰が本物になるのである。奇蹟は私たちの人生の中に何度も起こる。神が私の中に働いてくださって起こされたものであると気がつくかどうかである。最大の奇蹟は、一度死んでいた私を救い出し、永遠のいのちを与えてくださったことではないか。